

西田哲学館ニュース

第4号 (2006/3/31)

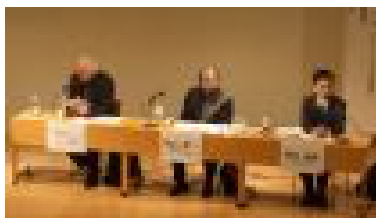


日独哲学交流シンポジウムを開催しました 平成18年3月21日(祝)

平成17年度は西田幾多郎の没後60年にあたります。また、「日本におけるドイツ年」ということで全国各地でドイツ関連の催しが多く開催されました。哲学館でもドイツ人講師2名、日本人講師4名をむかえて、日独哲学交流シンポジウムを開催しました。海外から講師を招いての国際シンポジウムは、哲学館開館して以来初めてのことで、当日は満席でホールに入ることができなかった方のために、ホワイエに会場内の様子が映し出されました。



V.ヴェルシュ先生、安藤忠雄先生



左からクラウス・フィーヴェーク先生、松山壽一先生、寄川条路先生

プログラムでは、「ヘーゲル・仏教・西田哲学」と題し、イエーナ大学のクラウス・フィーヴェーク先生、大阪学院大学の松山壽一先生、愛知大学の寄川条路先生による討議が行われました。

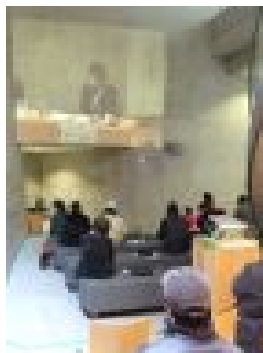
後半は「生きる、つくる、考える」と



司会・通訳の大橋良介先生

題し、イエーナ大学のヴォルフガング・ヴェルシュ先生による講演、続いて哲学館を設計した安藤忠雄先生による講演が行われました。建築と哲学、ならびに日本建築と安藤建築について西洋と東洋があわさり、まさに国際的な内容となりました。全体の司会・通訳は名誉館長の大橋良介先生にお願いしました。当日は建築関係者も多く参加していただきましたが、建築を通して生きること、考えることについて考えるきっかけになったと思います。

ホワイエに映し出された会場の様子



プログラム シンポジウム
「ヘーゲル・仏教・西田哲学」
クラウス・フィーヴェーク
松山 壽一、 寄川 条路
(司会・通訳) 大橋 良介

トーク ダイアログ
プログラム 講演&対話
「生きる、つくる、考える」
講演A ヴォルフガング・ヴェルシュ
「私が見た日本建築」
講演B 安藤 忠雄
「私と西田哲学館」
対話 ヴォルフガング・ヴェルシュ
×安藤 忠雄
(司会・通訳) 大橋 良介



満席の会場

目次			
日独哲学交流シンポジウム	1	寄附・購入	5
特別企画「環境を考える」	2	新プラトン主義協会大会開催	5
クリスマスコンサート	4	平成18年度事業予定	6
天空の坐禅会	4	お知らせ	8
入館者10万人を超えました	4	編集後記/アクセス	8



特別企画「環境を考える」

平成17年11月1日(火)～30日(水)

わたしたちは、このまま今の生活を続けていくことができるのでしょうか？最近、よく耳にする環境問題。でも環境問題とは何なのか、なぜ今環境問題なのか。疑問を持っている方も多いと思います。今の地球環境がどうなっているのかを知り、この問題についてどのように考えればよいのか。そのヒントを見つけるために、哲学館では特別企画「環境を考える」を開催しました。多角的に「環境」を見つめたこの企画から学んだことを、開催の様子とともにお伝えします。



ドイツ環境保全展の様子

ドイツから学ぶ



メラニーさん

かほく市はドイツのメスキルヒ市と姉妹都市提携を結んでいます。このドイツは早くから環境問題に取り組んでいる「環境先進国」として知られています。例えば昨年10月にかほく市訪問団がメスキルヒを訪れましたが、その滞在中に出された飲物はほとんどがリターナブル(洗うだけで再利用できる)瓶でした。そこで、11月3日に行われた報告会では、そうしたドイツでの環境政策やごみ処理の歴史と現在の様子などが、国際交流員のパウロート・メラニーさんによって報告されました。



三国 千秋 先生

そして同日は、引き続き三国先生による講演会も行われました。三国先生は、ドイツと日本の違いは「意識」と「制度」にあると言います。未来をになう子どもたちへの環境教育にドイツがとても力を入れている様子や、環境を配慮した制度について具体的にお話しをされました。

また今年度は、「日本におけるドイツ年」であることから、ドイツ総領事館などの協力により「ドイツ環境保全展 - 持続可能な暮らしと社会 -」も開催されました。ドイツでは環境保全は多くの関心を集めており、国民の9割以上の方が重要なテーマであると考えています。ドイツでの環境保全に関する考えや取り組みをパネル展示を通して知ることができました。

身近な活動を知る



牛乳パックで作った
絵手紙

それでは、私たちの暮らしの中ではどのような取り組みがなされているのでしょうか。「かほく市生活学校展」では、リサイクル品の制作や、宇ノ気川の水質調査などの活動の様子が紹介されました。傘を

利用して作るショッピングバックや、お父さんの古いワイシャツを再利用したエプロンなど、リサイクル・アイデアがいくつも展示されました。また「河北郡市広域リサイクル展」では、牛乳パックからトイレトペーパーへのリサイクルや、ダイオキシンの排出を減らす心がけなど、私たちの生活から出るごみが処理・再利用される様子が紹介されました。



牛乳パックを再利用した
トイレトペーパー

環境を見つめる感性

映画上映会では、『沈黙の春』で世界的に有名なレイチェル・カーソンの最後の著書『センス・オブ・ワンダー』を原作とした映画を上映しました。レイチェルは、アメリカの海洋生物学者ですが、そこで描かれるいのち・自然はどこか情緒的で、小さなものをいつくしむ私たち日本の自然観と通じるものがあります。本と映画の題名でもある「センス・オブ・ワンダー」は、<自然の神秘さや不思議さに目を見はる感性



持続可能な暮らしと社会 ドイツ環境保全展 (11月1日～30日)

同時開催展：かほく市生活学校活動展、河北郡市広域リサイクル展

講演 「ドイツの環境対策、エネルギーと交通」三国千秋氏 (11月3日)

パウロート・メラニーさんによる報告「ドイツ・メスキルヒにおける環境への取り組み」

講演 「西田哲学と環境問題」 浅見洋氏 (11月19日)

映画 「センス・オブ・ワンダー」上映会 (11月23日)

講演 「西田哲学と環境倫理 - ディープ・エコロジーに寄せて - 」小坂国継氏 (11月26日)

>という意味です。レイチェルは、子どもたちにこの感性を育むことの大切さを詩情豊かな文章でつづりました。このメッセージは今でも、次の世代に生きる子どもたちへのプレゼントとなっています。

これからの考え方

浅見先生の講演では、ドイツやかほく市内の環境対策の事例と共に、環境問題につながる西田哲学について次のように説明されました。現代の私たちは、これまでの自然をただ守るだけでなく、例えば「ピオトープ」(「いのちの場」という意味)のように自然を積極的に作り、守っていく必要があります。自然環境は、人間も含めて、まさに様々な生き物が生息する「いのちの場」です。その中で生きている個々のものが、環境に影響を与えながら、環境も個々の生き物に影響を与えます。浅見先生は、西田幾多郎がこうした互いに関係しあう「場所」ということを考えていたと話されました。



浅見洋先生

小坂先生の講演では、アメリカの環境倫理を紹介して、西田哲学と

の共通点や違いを、次のように話されました。環境問題を解決する上で、科学技術の進歩や制度の整備は重要な課題ですが、私たちが、個人で自らの意識や生活スタイルを変えていくことも重要です。そのためには目先の小さな利益だけでなく、自分の過度の欲望をできるだけ減らして、大きな視点で「自然環境になったつもりで見る・考える・行う」という西田哲学の考え方は今でも大切です。



小坂国継先生

日本は、だいぶ欧米化されていますが、それでもやはり自然環境に対して日本独特の感じ方・考え方があります。小坂先生は、欧米の環境保護の考え方をそのまま日本に入れるのではなく、日本に合った環境倫理を、日本を代表する西田哲学に求めることができるということをお話されました。

3人の先生の講演内容は、『点から線へ』第49号に掲載予定です。



ドイツ環境保全展: エネルギーハンドル

参加者の声から

映画を見て、自然の声を聞いていない・見ていないことに気がきました。(金沢市) / 忙しく時の流れの早い社会の中で忘れてしまっていた大事なことを映画から学べた気がします。(かほく市) / 「知ることは感じることの半分も大事ではない」というレイチェルの言葉が印象に残りました。(金沢市) / 小坂先生のお話は、今後の生き方の参考になりました。(金沢市) / 環境教育の根本にふれたように思った。参加してよかったです。(かほく市) / 日常の生活から環境を考える大切さを学んだ。(金沢市)

特別企画「環境を考える」
平成17年11月1日(火)～30日(水)

主催 / かほく市、石川県西田幾多郎記念哲学館
後援 / 在日ドイツ大使館、石川日独協会
協力 / 河北郡市広域事務組合、かほく市国際交流協会、
かほく市各種女性団体連絡協議会、コミュニティレール、津幡町立図書館



クリスマスコンサート 平成17年12月20日(火)

すっかり定着してきた、クリスマスコンサート。クアドリフォーリオのみなさんにより、温かくて本格的な演奏会になりました。恒例のプレコンサートも行われ、コンクリートでできた瞑想空間「ホワイエ」での音の聞きくらべも楽しみました。哲学館でのみ体験できる、このプレコンサート。楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。

演奏者:クアドリフォーリオ(*四つ葉のクローバー)

- ヴァイオリン 坂本久仁雄
- ヴァイオリン 上保朋子
- ヴィオラ 石黒靖典
- チェロ 大澤明



プレコンサート「ホワイエ」にて

天空の坐禅会 平成18年2月18日(土)

平成16年度に開催した特別企画「禅を知る」では、坐禅会がとても好評でした。そこで、再び金沢・大乘寺の協力をいただき、坐禅会を開催しました。今回坐禅した場所は哲学館で一番高い所にある「展望ラウンジ」です。360度ガラス張りのとても見晴らしが良い場所で、来館者の思索の空間となっています。坐禅と聞くと、暗く寒い坐禅堂での修行…というイメージがありますが、今回は初めての方も参加しやすいように、明るく開放的な場所を選びました。



雲水さんによる丁寧な坐禅指導

当日はとても天気良く、清々しい景色を味わいながら坐禅会が始まりました。雲水さんの丁寧な指導のもと、約40分間の坐禅をくみました。その後は東住職による講和もいただき、道元禅師について学びました。

今回の坐禅会は、定員に対しお申込みが多数あったため、お断りしたお客様もいました。アンケートの結果をみても、再度開催を望む声が多かったことから、今後も開催することを検討しています。



大乘寺・東住職による講和

入館者10万人を超えました

平成18年1月27日(金)

平成18年1月27日、哲学館の入館者が10万人を超えました。平成16年6月8日から約2年半余りで、当初の予想を超えた多くの方に来館いただきました。

10万人目となったのは、かほく市立金津小学校4年生のみなさんで、奥野館長より記念品が手渡されました。金津小学校4年生のみなさんは、社会科で勉強する「郷土の偉人」について学ぶために哲学館に訪れました。金津小学校の校舎は、哲学館と同じく安藤忠雄氏の設計によるものです。児童たちが10万人目になったのも、不思議な縁を感じます。



記念品を受け取る金津小学校4年生の代表

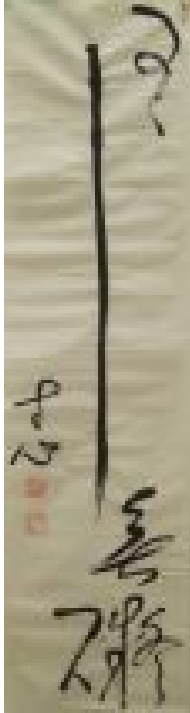


寄附・購入

直筆墨蹟ほか460点

親族より寄附

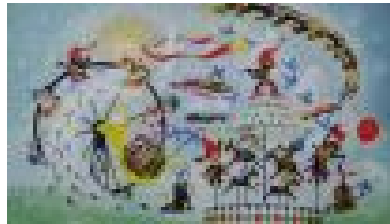
親族の方より、墨蹟・色紙・書簡・葉書・写真など460点もの資料をいただきました。西田幾多郎直筆の書「無」や「道」をはじめとする、大変貴重な資料の数々です。書簡では、三木清や倉田百三から西田幾多郎へ宛てたものなど、珍しいものもあります。これらの資料は、時間をかけて整理し、展示していきたいと考えています(H18/2)。



絵画『ドリーム』

坂本美津子氏より寄附

かほく市在住の坂本美津子さんより、藤城清治作『ドリーム～皆に夢を～』をいただきました。日本を代表する影絵作家の詩情豊かなこの作品は、喫茶テオリアに展示してあります(H17/10)。



哲学関係図書

大矢甚松氏より寄附

志賀町在住の大矢甚松氏より、大変貴重な哲学関係図書を101冊いただきました。(H17/7)。

図書の寄附

その他にも次の方々から、たくさんの方々の寄附をいただきました。寄附していただいた図書は、哲学館図書室の蔵書とし

て閲覧・貸出ができます。

山本 晃氏、 岡崎文明氏、
獨協大学天野記念室、
堀田弘毅氏、 西脇隆治氏、
猪谷一雄氏、 田上善浩氏、
森 博也氏。 (寄附日順)

直筆一行書

古書店より購入



西田幾多郎直筆の一行書「好學不知老之将至(学を好んで将に老いの至らんとするを知らず)」を購入しました。(H17/11)

新プラトン主義協会大会開催〔共催事業〕

平成17年10月29日(土)・30日(日)



「新プラトン主義と東洋思想」というテーマで、新プラトン主義協会大会が開催されました。「田辺の西田、プロティノス批判について」や「プロティノスと西田における身体の問題」などと題し、新プラトン主義の東西思想に通じる普遍性、また将来の研究の方向性や意義について発表されました。県内外から延べ約200人が参加したこの大会は、哲学館にとって西田哲学会年次大会につづき、ホールを利用した2回目の学会開催となりました。



平成 18 年度 事業予定

西田幾多郎哲学講座 (石川県民大学校連携講座)

今年も5月より、西田幾多郎哲学講座が始まります。西田幾多郎の人となり、その哲学を中心に宗教・芸術・倫理などがテーマとなっています。全12回の哲学入門講座として、人間とは何か、生きるとは何かを学びます。西田幾多郎ゆかりの地を訪ねる野外学習、今年には京都方面を予定しています(11月4・5日、希望参加)。

5月20日(土)	浅見 洋(石川県立看護大)	『善の研究』ができるまで 西田幾多郎の生涯・四高教授時代
6月10日(土)	大峯 顕(大阪大学名誉教授)	言葉と宗教 日本人の自然観
6月24日(土)	岡崎 文明(金沢大)	哲学入門 哲学と科学(1)アリストテレス
7月1日(土)	岡崎 文明(金沢大)	哲学入門 哲学と科学(2)デカルト
7月15日(土)	橋本 隼男(金沢工大名誉教授)	親鸞と蓮如 三願転入と六字釈
9月2日(土)	森 雅秀(金沢大)	美術からみる密教の世界 曼荼羅とは何か
9月16日(土)	米山 優(名古屋大)	情報を哲学する
9月17日(日)	米山 優(名古屋大)	哲学と人生 アランに倣って
9月30日(土)	田中 久文(日本大)	京都学派における「自然」と「作為」(1) 西田幾多郎
10月1日(日)	田中 久文(日本大)	京都学派における「自然」と「作為」(2) 九鬼周造と三木清
10月21日(土)	田邊 正彰(金沢学院大)	現代とルードルフ・シュタイナー 人智学と人間学
11月18日(土)	浅見 洋(石川県立看護大)	西田哲学から看護を考える

土曜日は14時から、日曜日は10時から、約2時間ほどになります。

講師プロフィール

浅見 洋 (あさみ ひろし)

1951年石川県生まれ。石川県立看護大学教授。著書『二人称の死 西田・大拙・西谷の思想をめぐって』『西田幾多郎とキリスト教の対話』等。

岡崎 文明 (おかざき ふみあき)

1944年大阪府生まれ。金沢大学教授。著書『プロクロスとトマス・アクィナスにおける善と存在者』、共編著『現代の哲学』『西洋哲学史観と時代区分』『西洋哲学史』等。

橋本 隼男 (はしもと たかお)

1931年石川県生まれ。金沢工業大学名誉教授。九州大学にて博士号を取得。ギリシャ哲学史、バルド神学に関する研究論文多数。

森 雅秀 (もり まさひで)

1962年生まれ。金沢大学助教授。著書『インド密教の仏たち』『マンダラの密教儀礼』『チベット仏教絵画の図像学のおよび様式史的研究』等。

米山 優 (よねやま まさる)

1952年生まれ。名古屋大学教授。著書『モナドロジーの哲学』『情報学の基礎』、訳書に『ライプニッツ』『人間知性新論』、共訳書に『ライプニッツ著作集』第8巻・第9巻等。

田中 久文 (たなか きゅうぶん)

1952年生まれ。日本大学教授。著書『九鬼周造 偶然と自然』『日本の哲学を読み解く 無の時代を生きぬくために』、共編著に『甦る和辻哲郎』等。

田邊 正彰 (たなべ まさあき)

1955年生まれ。金沢学院大学教授。論文に『シェラーの人格論』等。平成16年度より当館の寸心読書会講師をつとめる。



講座・講演会

寸心読書会

毎月第2土曜日 14時～

講師:田邊 正彰先生(金沢学院大学教授)

1949年から続いている、一般の方を対象とした西田幾多郎に関する本を読む読書会です。西田幾多郎の随筆(エッセイ)を、講師の丁寧な解説付きで、皆でゆっくりと読み進みます。

毎月第2土曜日
14時～

哲学館研修室
参加無料

現在のテキスト:
『西田幾多郎随筆集』(岩波文庫)



第62回寸心忌 記念講演会

6月10日(土) 14時～

演題「言葉と宗教－日本人の自然観－」

講師:大峯 顕先生(大阪大学名誉教授)

西田幾多郎の命日を寸心忌とし、例年記念講演会を開催しています。入場無料です。

講師プロフィール・・・1929年奈良県に生まれる。59年京都大学大学院文学研究科博士課程修了。71年～72年文部省在外研究員としてハイデルベルク大学留学。76年文学博士。俳人(俳号:大峯あきら)、「毎日俳壇」選者。著書に『フィヒテ研究』『花月の思想』『親鸞のコスモロジー』『宗教の授業』『西田哲学を学ぶ人のために』など多数。



市民講座 はじめての西田幾多郎

5月7日(日)～8月6日(日)、全4回

講師:奥野館長、大熊専門員

西田幾多郎ってどんな人?有名なのは知っているけど、何をした人かわからない!そんな皆さんの疑問にお答えするために、西田博士のことを全く知らない人でも、わかりやすく学べる入門講座です。「西田幾多郎と鈴木大拙」「はじめての無」「書に見る西田先生の想い」などの内容を予定しています。

毎月第1日曜日
14時～

哲学館研修室
参加無料

資料は毎回配布します。



第26回 夏期哲学講座

8月19日(土)～22日(火)、3泊4日

1981年から続く「夏期哲学講座」の開催日程が決まりました。各地から7人の教授陣を講師に迎えて、西田哲学を中心に哲学・宗教・倫理を学びます。3泊4日の合宿型の集中講座で、初心者から研究者まで、年齢・性別・職種を超えて受講者は全国から集まります。詳細は7月初旬に確定します。興味のある方は昨年の資料をお見せしますので、お気軽にお問合せください。



その他の平成18年度予定

寸心忌 6月7日(水)

特別企画 11月頃

博物館実習の受け入れ 8月中旬～下旬

第4回全国吟詠大会 9月3日(日)

企画展示 3月頃

出前講座

お知らせ

河合良成コレクション展 開催中

平成16年に、河合良成のご子息より寄附していただいたものを展示しています。河合良成は、西田幾多郎が四高教授時代に兄貴分・相談柱として設立に関わった「三々塾」で学びました。後に政治家・企業家(小松製作所中興の祖)としてその名は知られています。

展示しているのは、西田幾多郎直筆の書5点、直筆扁額「永劫回帰」、西田幾多郎から河合良成宛の書簡6通、西田幾多郎のいたずら書帳1点になります。この機会にぜひご覧ください。



河合良成コレクション展

平成18年3月25日(土)～
5月14日(日)
展示室2階・特別展示コーナー

販売しています



『寸心の思想』

『大拙の言葉』

昨年、金沢市が西田幾多郎と鈴木大拙の思想を紹介する中学生向けの小冊子「はじめての思想家シリーズ」を発刊しました。これは、ふるさとの偉人の思想を知ってもらおうと、中学生でも理解しやすいように作られました。項目ごとに、それぞれの代表的著作の原文をいくつか引用し、その内容を平易な言葉で解説しています。ポイントを突いたイラストや写真も理解の助けになっています。

『寸心の思想』は、日本大学講師の櫻井歓さんが、『大拙の言葉』は当館の大熊 玄専門員が執筆し、県立看護大学の浅見洋先生がシリーズの監修をしています。各700円で当館と金沢市立ふるさと偉人館でのみ販売しています。

平成18年度友の会 会員募集中

特典

観覧パスポート(会員証)を差上げます。〔特別会員は3枚〕
本人と同伴者1名まで展示室の観覧が無料となります。
喫茶室「テオリア」の利用が1回につき100円割引されます。
『点から線へ』をお届けします。
『哲学館ニュース』をお届けします。
事業案内をお届けします。
事業に1割引で参加できます。
一部除く〔特別会員は2割引〕

会員の種類

一般会員 年額2,000円
特別会員 年額10,000円

とてもお得な特典ばかりです。
常時受付しておりますので、ぜひご参加ください。

臨時休館します

5月23日(火)～25日(木)

展示室燻蒸のため、臨時休館いたします。通常通り、毎週月曜日も休館となります。

編集後記

年度末に開催した「天空の坐禅会」「日独哲学交流シンポジウム」は、どちらも定員に対し申込者が多く、お断りした方が何人もいました。大変申し訳なく思うと同時に、人気のある催しは繰り返し開催したいと感じました。国際的なシンポジウムは頻繁に開催できませんが、坐禅会は気軽に参加していただけるよう、工夫していきたいと思っております。

これからの季節、哲学館はどんどん表情を変えていきます。桜やツツジ、萩などが咲く哲学の杜で、散策を楽しんでみませんか。

発行:

石川県
西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076)283-6600 FAX (076)283-6320

E-mail: nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp



発行年月日：2006年3月31日